



2021年 1月 6日 担当 小松

## サウジが100万バレルの自主減産 OPECプラス、ロなど小幅増産

[モスクワ／ロンドン 5日 ロイター] - サウジアラビアは5日、2月と3月の産油量を追加で日量100万バレル自主削減すると発表した。石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなどの非加盟国で構成する「OPECプラス」の原油市場安定化に向けた取り組みの一環だが、サウジ以外の大部分の国は産油量を現行水準に維持するほか、ロシアなどは小幅増産する。

OPECプラスは前日、協調減産体制を巡る協議を開始。サウジのア卜ドゥラジズ・エネルギー相は、自国経済の支援と原油市場の安定化の双方に向け、これまでの確約以上の減産を行うと表明した。

イスタンブール・エナジーのビヨルナー・トンハウゼン氏は「サウジの自主減産は、いわば『ハッピーアワー』のようなものだ」とし、市場で歓迎されたと指摘。発表を受け、北海ブレント原油先物は約5%値上がりし53ドル台を付けた。

大部分の国は現行水準を維持するが、ロシアとカザフスタンは合計で2月に日量7万5000バレル、3月にさらに日量7万5000バレルの増産が認められた。

# ウメモト インフォメーション

引用 (日経/化学工業/燃料油脂/新聞展望/他)

2021年 1月 6日 担当者: *井手*

【第二種郵便物認可】

サウジアラビア産の  
2020年12月積みDD原油  
(ドル/バレル、カッコ内)  
(は前月比上昇率%)

エキストラライト	49.20(14.4)
ライト	49.40(14.3)
ミディアム	49.70(14.8)
ヘビー	49.60(14.5)

輸入原油価格が大幅に  
上昇した。日本の石油会  
社がサウジアラビアから  
長期契約で輸入する20

20年12月積みの原油価  
格は全油種で前月から14  
%超上がり、2月積み以  
来10ヶ月ぶりの高値とな  
った。新型コロナウイル  
スのワクチン実用化など  
で石油需要の回復期待が  
がつた。いずれも値上がり

強まり、指標となるドバ  
イ原油価格が年末にかけ  
て大幅に上がったのが影  
響した。

代表油種「アラビアン  
ライト」の12月積み価格  
は1バレル49.4ドルと11月積  
みに比べ14.3%高い。輕  
質の「エキストラライト」  
は49.22ドルで同14.4%上  
がつた。

ガソリンや航空機燃料の

需要回復の鈍さを背景に  
12月積みの調整金はサウ

ジが主要油種に割り引き  
を適用していたが、指標

原油価格の大幅な上昇分  
が割引分を上回った。

## サウジ産原油14%高

12月積み、10ヶ月ぶり高値

りは2ヶ月連続。ドバイ  
原油の12月の月間平均価  
格は15%近く上がった。  
日本が長期契約で輸入  
する原油は直接取引(ダ  
イレクト・ディール)D

D)原油と呼ばれ、ドバ  
イ原油とオマーン原油の

月間平均価格に調整金を  
加減して毎月改定する。

ガソリンや航空機燃料の  
需要回復の鈍さを背景に  
12月積みの調整金はサウ

ジが主要油種に割り引き  
を適用していたが、指標

原油価格の大額な上昇分  
が割引分を上回った。

【エネルギー政策】  
おける石油の位置づけ  
と石油の安定供給確保  
東日本大震災の際に  
は国中が大混乱のな  
か、石油をはじめとす  
るエネルギーを確保し  
消費者・被災地に届け  
ることに奔走したこ  
と、S+3Eの重要性  
を再認識したことを、  
無資源国のが国は極  
めるべきではない。  
石油の国内需要は次  
第に減少することが見  
込まれているが、引き  
続き運輸・民生・業務  
部門を中心国民経済  
を支え、地震や台風な  
どの自然災害では、工



杉森務会長

石油連盟の杉森務会長（ENEOSホールディングス会長・グループCEO）は2021年の重要課題などについて、年頭にあたり所感を発表した。

石連・杉森會長  
2021年重要課題

**重要課題**

金を創設すること、さらには「グリーン成長戦略」を発表した。米国はバイデン政権も政策のグリーン化を図るとして、米国でも「カーボンニュートラル宣言」や「基盤整備」、「クリーンエネルギー戦略」はわが国の立ち位置を内外に示すもので高く評価したい。

石油連盟は2019年度に、石油系燃料の低炭素化や革新的技術への取り組みなどを内容とする「石油産業の長期低炭素ビジョン」を取りまとめたが、これをさらに強化し前向きな挑戦とするべく、2050年のカーボンニュートラル実現に向けての具体的な方策を検討している。

$\text{CO}_2$ （二酸化炭素）フリー水素やバイオ燃料など非化石エネルギーの拡大、合成燃料であるe-fuelsやCCS・CCUSな

# 「低炭素ビジョン」強化 “実質ゼロ”に挑戦 SS活用、CO<sub>2</sub>フリー水素など社会実装力ギ カギと考えている。業界をあげて、将来的ながどのよう

用記事

日経新聞

燃料油脂新聞

化學工業日報

日イタ一

# U ウメモト インフォメーション U

2021年 1月 6日 担当 小松

伊藤忠エネクスは先ごろ、前田道路（東京都品川区）が自社の技術研究所（茨城県土浦市）で、伊藤忠エネクスが取り扱うGTL燃料を使用した実証実験を行い期待した評価が得られたと発表した。前田道路は来年度から全国のアスファルト台材工場で順次切り替えの検討を開始する。また、アスファルト台材工場で稼働する重機やフォークリフトでアスファルト台材の製造・

リフトにGTL燃料を用いることも引き続き検討する。



GTL燃料の燃焼実験

前田道路は、アスファルト台材を作る際に用いられる骨材を直火で加温・乾燥させるバーナーという装置にGTL燃料を使用した際のばい煙数値測定および燃焼評価などを実施した。この種の実証実験は国内初。

## 伊藤忠エネクスのGTL燃料

## 前田道路が実証実験

施工を可能としたラオムドアスファルト技術「LEAB（レアブ）」の導入や、建設副産物リサイクル施設の強化、情報通信技術（ICT）を活用した施工実施など、事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減や環境負荷低減に取り組んでおり、その活動を通じて循環型社会の構築を推進している。

伊藤忠エネクスが取り扱うGTL燃料は硫黄分・芳香族分を事实上ほとんど含まず、燃焼時のCO<sub>2</sub>削減効果、NO<sub>x</sub>（窒素酸化物）やPM（ばい煙や粉じんなどの粒子状物質）の低減効果が期待できる。こうした特徴が前田道路の「人と環境にやさしい道づくり」というコンセプトに合致し、今回の実証実験となつた。

GT

# U ウメモト インフォメーション U

2021年 1月 6日 担当 小松

▶ゼネコン各社／洋上風力事業参画へしのぎ削る／体制強化や技術開発加速 [2021年1月4日1面]



五洋建設らが建造するSEEP船のイメージ

経済産業、国土交通両省が昨年11月に秋田・千葉両県の4区域で洋上風力発電（着床式）の事業者選定手続きを開始するなど、洋上風力発電プロジェクトの実現が具体化しつつある。事業者やEPCI（設計・調達・施工・据え付け）などで参画を狙うゼネコン各社も体制強化やSEEP（自己昇降式作業台）船の建造、技術開発などを加速している。

洋上風力発電のトップランナーを目指す五洋建設は、風車の大型化などを背景に鹿島らと1600トンのSEEP船を建造中。清水琢三社長は「市場規模の拡大を考えるともう1隻必要になる」との考えを示し、海外企業と連携しながらSEEP船の調達を検討している。鹿島の押味至一社長

は市場規模の拡大を見据え「沿岸に拠点を作りたい」と話す。大林組は東亜建設工業と共同でSEEP船を建造中。清水建設も世界有数の作業能力を備えたSEEP船を22年10月に完成させる予定だ。

戸田建設は浮体式洋上風力発電設備を実用化済み。「浮体式は当社が完全にアドバンテージを握っている。徹底的なコスト低減に向け技術開発や研究を継続していく」と今井雅則社長は力を込める。

東洋建設も洋上風力発電施設のコスト低減に向けた基礎工法などを開発中。武澤恭司社長は「究極の目的は低価格で電気を供給することだ。期待に応えられよう技術開発に取り組みたい」と話す。東亜建設工業は施工能力の向上などに向け海外企業との業務連携も視野に検討を進める。秋山優樹社長は「今年は勝負の年になる」と力を込める。

若築建設は昨年12月1日に洋上風力開発室を設置し体制を強化した。風車の大型化が加速する中、五百蔵良平社長は「船舶の規模で勝負するのではなく、10メガ以下の中規模施設をターゲットに考えている。低成本で効率的に施工できる技術を確立しその土俵で勝負していく」と意気込む。

洋上風力発電は菅政権が目標に掲げる「カーボンニュートラル」を実現する上で重要な役割を果たす。業界の枠を超えた連携も視野に、ゼネコン各社は攻勢を掛ける。